令和８年度　認知症介護実践研修（実践者研修）研修カリキュラム

＜講義・演習カリキュラム＞

１日目	予定時間 開始	～ 所要	終了 講義時間	科　目　名	研修形態	目　的	概　要
6/22（月）	9:30	～ 60	10:30	■オリエンテーション１		研修の概要を理解する。	・研修の流れ ・講義と演習の違い ・受講にあたっての留意事項等
	10:30	～ 10	10:40	休憩			
	10:40	～ 70	11:50	■オリエンテーション２		チームビルディング	・マッピング技法を用いた自己紹介
	11:50	～ 60	12:50	昼休憩			
	12:50	～ 180	15:50	■認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援	講義＋演習	認知症の人が望む生活を実現するため、認知症ケアの歴史的変遷や認知症ケアの理念、認知症の原因疾患、中核症状、行動・心理症状(BPSD)の発症要因、認知症ケアの倫理や原則、認知症の人の意思決定支援のあり方について理解を深める。	本科目では、認知症ケアの歴史的変遷を概観し、現行の認知症施策とその背景にある認知症ケアの理念、認知症の原因疾患や症状への対応についての基礎的な考え方を学び、認知症の人が望む生活を実現するためのケア実践に繋げることを目指す。また、介護職員等は、尊厳の保障、安全や健康管理において専門職として倫理観を問われる場面が多い。本科目では、認知症ケアにおける倫理的問題に対峙していくための倫理原則とその活用、意思決定支援の考え方について具体的に学習する。
	15:50	～ 10	16:00	休憩			
	16:00	～ 30	16:30	■本日の振り返り		当日の受講科目の学びを深める。	学びの共有と振り返り。
	計 180						

２日目	予定時間 開始 ～ 終了 所要 講義時間	科　目　名	研修形態	目　的	概　要
6/23 （火）	9:10 ～ 15:10 （昼休憩60分含む） 300	■生活支援のための ケアの演習１	講義 ＋ 演習	食事・入浴・排泄等の基本的な生活場面において、中核症状の影響を理解した上で、認知症の人の有する能力に応じたケアとしての生活環境づくりやコミュニケーションを理解する。	認知症の人が望む生活を支援するためには、食事、入浴、排泄等の基本的な活動のケアが適切に行われることが求められる。そのためには、中核症状からもたらされる生活の中の困難さを深く理解し対応できる技術が必要である。本科目では、認知症の人の視点で生活や人生を捉え、生活場面ごとに中核症状の影響と現に有する能力の影響を分析し理解した上で、生活環境づくり・コミュニケーションが実践できるようになることを目指す。
	15:10 ～ 15:20 10	休憩			
	15:20 ～ 16:20 60	■ＱＯＬを高める活動と 評価の観点	講義 ＋ 演習	認知症の人の心理的安定やQOL（生活・人生の質）向上を目指す活動に関する基本的知識、展開例、評価の観点と方法について理解を深める。	認知症の人に対して一定の効果が認められている心理療法等の活動は複数あるが、それらの活動はBPSDの軽減といった症状対処を目的にスタッフ主導で行うのではなく、認知症の人の心理的安定、QOLの向上を目指して、一人ひとりの主体性やニーズに留意しつつ導入される必要がある。本科目では活動の特徴や展開、評価の観点と具体的な方法について理解を深め、PDCAサイクルを通して、生活の中で継続的にQOLを高めるための考え方や方法を学習する。
	16:20 ～ 16:30 10	休憩			
	16:30 ～ 17:00 30	■本日の振り返り		当日の受講科目の学びを深める。	学びの共有と振り返り。

計　360

３日目	予定時間 開始	～	終了	科　目　名	研修形態	目　的	概　要
		所要	講義時間				
6/24（水）	9:10	～	10:40	■家族介護者の理解と支援方法	講義＋演習	在宅で介護する家族支援を実践する上で、その家族の置かれている状況や心理、介護負担の要因を理解し、必要な支援方法が展開できる。	可能な限り住み慣れた地域で認知症の人が生活を継続するためには、介護する家族の支援は欠かせない。本科目では、介護保険施設・事業所等の介護職員等として、家族介護者支援を行う上で必要な視点を理解し、多角的かつ具体的な支援方法について実践できるようになることを目指す。
		90					
	10:40	～	10:50	休憩			
		10					
	10:50	～	12:20	■権利擁護の視点に基づく支援	講義＋演習	権利擁護の観点から、認知症の人にとって適切なケアを理解し、自分自身の現状のケアを見直すとともに、身体拘束や高齢者虐待の防止の意識を深める。	ケアの質を維持・向上させることによって認知症の人の生活の質を維持することは、介護サービスにおける権利擁護の実践であるといえる。介護職員等はその役割を十分に認識する必要がある。本科目では、認知症の人の意思決定支援を踏まえた権利擁護に必要な基本的知識を修得するとともに、権利擁護の観点から現在のケアの質を振り返り、具体的な権利擁護の方法として、高齢者虐待や身体拘束、不適切なケアの防止の取り組みについて学習する。
		90					
	12:20	～	13:20	昼休憩			
		60					
	13:20	～	15:20	■地域資源の理解とケアへの活用	講義＋演習	関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等を通じて、既存の地域資源の活用や認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための地域資源の開発の提案ができる。	認知症の人が自立的に生活するためには、介護職員等が地域資源を理解し、ケアに活かしながらその人の望む生活の質を高めていくことが求められる。しかし、認知症や施設生活によって社会との関係が希薄になると、これまでとは大きく異なる生活になってしまったり、地域社会で孤立したりすることが懸念される。本科目では、地域社会や関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等の学びを通じ、既存の地域資源をケアに活用し、認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための地域資源の提案や展開、協働の方法を学習する。
		120					
	15:20	～	15:30	休憩			
		10					
	15:30	～	16:00	■本日の振り返り		当日の受講科目の学びを深める。	学びの共有と振り返り。
		30					
	16:00	～	16:10	休憩			
		10					
	16:10	～	16:50	■オリエンテーション３		後半の研修への理解	・インターバル期間について ・職場実習事例とアセスメント、実習について
		40					
		300					
6/25（木）～7/14（火）（内２週間）				■インターバル期間		詳細については、研修の初日に説明します。	

４日目	予定時間 開始	～	終了	科　目　名	研修形態	目　的	概　要
		所要	講義時間				
7/15（水）	9:20	～	10:20	■学習成果の実践展開と共有	講義＋演習	認知症介護実践者研修におけるこれまでの学習成果を踏まえ、自施設・事業所での自らの認知症ケアを実践することにより、研修で得た知識を実践において展開する際に生じる気づきや疑問・課題を明らかにする。それらの自分自身の認知症ケア実践の課題や取り組みの方向性を検討し、他の受講者と共有することにより、知識の活用に関する幅広い視点を得る。	認知症介護実践者研修では、単に知識を得るだけではなく、研修で学習した成果を現場で実際に応用し、その経験をもとに振り返りながら、実際に実践に活用できる技術として修得することを目指している。本科目では、これまでの学習を踏まえ、自施設・事業所において中間課題として①認知症の人とのコミュニケーション、②これまでの学習を踏まえたケア実践とその場面の記録に取り組む。それらの取り組みの結果と結果からの学びを、受講者間で共有することにより、自分自身の認知症ケア実践上の課題や取り組みの方向性を明らかにすることを目指す。
		60					
	10:20	～	10:30	休憩			
		10					
	10:30	～	12:30	■生活支援のためのケアの演習２（行動・心理症状）（前半）	講義＋演習	認知症の行動・心理症状（BPSD）が生じている認知症の人に対して、行動の背景を理解した上で生活の質が高められるようチームで支援できる。	認知症の人が生活の中で生じる困難さへの適切な対応ができない場合、ときに行動・心理症状（BPSD）として表出することがある。その際に生活歴や心理的側面、環境適応や健康状態の管理等の発症要因を分析し理解した上で、生活の質が高められるようチームで支援することが求められる。本科目においては、行動・心理症状（BPSD）への対症療法的な対応ではなく、その背景を理解した上で、認知症の人の生活の質を高める支援ができるようになることを目指す。
		120					
	12:30	～	13:30	昼休憩			
		60					
	13:30	～	15:30	■生活支援のためのケアの演習２（行動・心理症状）（後半）	講義＋演習	認知症の行動・心理症状（BPSD）が生じている認知症の人に対して、行動の背景を理解した上で生活の質が高められるようチームで支援できる。	認知症の人が生活の中で生じる困難さへの適切な対応ができない場合、ときに行動・心理症状（BPSD）として表出することがある。その際に生活歴や心理的側面、環境適応や健康状態の管理等の発症要因を分析し理解した上で、生活の質が高められるようチームで支援することが求められる。本科目においては、行動・心理症状（BPSD）への対症療法的な対応ではなく、その背景を理解した上で、認知症の人の生活の質を高める支援ができるようになることを目指す。
		120					
	15:30	～	15:40	休憩			
		10					
	15:40	～	16:00	■本日の振り返り		当日の受講科目の学びを深める。	学びの共有と振り返り。
		20					
	16:00	～	16:10	休憩			
		10					
	16:10	～	18:00	■アセスメントとケアの実践の基本(前半)	講義＋演習	認知症の人の身体要因、心理要因、認知症の中核症状のアセスメントを行い、具体的なニーズを導くことができるようアセスメントの基本的視点を理解する。アセスメントを踏まえた目標の設定と、目標を実現するためのケアの実践計画の作成・立案・評価ができる。	認知症の人の生活全般を支援するためのケアの実践が展開されるためには、多角的な視点でアセスメントが行われた上で、その人の望む生活像を洞察しケアが行われる必要がある。本科目では認知症の人の望む生活像について事実を基に洞察し、達成に向けた目標を設定する過程を学ぶ。また、アセスメントを踏まえ、認知機能障害の影響を大きく受けて生じている課題（例えば、BPSD）の予防や軽減に資する部分について、ケアの実践計画を作成・立案・評価する方法について学び、演習を通してこれまでの学習内容を統合することを目指す。
		110					

計　300

５日目	予定時間 開始	～	終了	科　目　名	研修形態	目　的	概　要
		所要	講義時間				
7/16（木）	9:10	～	12:20	■アセスメントとケアの実践の基本(後半)	講義＋演習	認知症の人の身体要因、心理要因、認知症の中核症状のアセスメントを行い、具体的なニーズを導くことができるようアセスメントの基本的視点を理解する。アセスメントを踏まえた目標の設定と、目標を実現するためのケアの実践計画の作成・立案・評価ができる。	認知症の人の生活全般を支援するためのケアの実践が展開されるためには、多角的な視点でアセスメントが行われた上で、その人の望む生活像を洞察しケアが行われる必要がある。本科目では認知症の人の望む生活像について事実を基に洞察し、達成に向けた目標を設定する過程を学ぶ。また、アセスメントを踏まえ、認知機能障害の影響を大きく受けて生じている課題（例えば、BPSD）の予防や軽減に資する部分について、ケアの実践計画を作成・立案・評価する方法について学び、演習を通してこれまでの学習内容を統合することを目指す。
		190					
	12:20	～	13:20	昼休憩			
		60					
	13:20	～	13:40	■本日の振り返り		当日の受講科目の学びを深める。	学びの共有と振り返り。
		20					
	13:40	～	13:50	休憩			
		10					
	13:50	～	17:50	■職場実習の課題設定	講義＋演習	認知症の人が望む生活の実現に向けて、適切にアセスメントを行い、課題と目標を明確にした上で、ケアの実践に関する計画を作成することができる。	認知症介護実践者研修の講義・演習で修得した知識、技術を実践で活用するためには、現状のケアの評価をした上で、課題を見出し、改善のための計画を立てて取り組む必要がある。本科目では、対象者を定め現状の課題分析を行い、ケア実践計画案を作成する。その上で、職場実習の行動計画を立てることを目指す。
		240					
	計 430						

＜実習等カリキュラム＞

期間・日時	科　目　名	区分	目　　的	概　　要
7/17（金）～8/13（木） （４週間）	■職場実習 （アセスメントと ケアの実践）	実習	研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができる。アセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケア実践計画及びケアの実践を展開できる。	本科目は、課題となる事例に対し研修中に学んだ内容をもとにアセスメントを行い、ケア実践計画を実施する過程である。実習は認知症の人の望む生活の実現に寄与する計画を立て、それに基づいた詳細な記録と評価を行う。職場実習の過程を通じ、質的評価だけでなく標準化された尺度を利用した量的な評価についても体験的に学習する。

9/11 （金）	9:20　～　12:50 210	■職場実習評価	講義 ＋ 演習	アセスメントやケア実践計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価、分析し職場及び自己の認知症ケアの今後の課題を明確にすることができる。	本科目は、職場実習で実施したケア実践計画の実施結果を文章等でまとめ、それについてグループ発表後、相互評価を行う。そこで得られた助言や指導をもとに今後の職場及び自己の認知症ケアの実践に対する課題を明確にすることを目指す。
	12:50　～　13:50 60	昼休憩			
	13:50　～　14:50 60	■本日の振り返り		当日の受講科目の学びを深める。	学びの共有と振り返り。
	14:50　～　15:00 10	休憩			
	15:00　～　16:00 60	■特別講義	講義	未定	未定